

対象入学年度		対象学科名	
2015		建築学科	
科目名			
建築設計II Architectural Design II			
前後期	実施期	区分	単位数
後期	2年次後期	必修科目	2
担当教員			
鯨坂徹、柴田晃宏、鷹野敦、小山雄資、朴光賢			
代表者教員連絡先等			
099-285-8291 ajisaka@aae.kagoshima-u.ac.jp			
授業の概要（目的と内容）			
<p>本科目では、小規模建築の機能や構成を理解するとともに、建築計画の基礎的知識を建築設計に応用していく能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>建築設計第一では利用者が住み手に限定される住宅を設計対象としていたのに対して、本科目では特定の利用者に限定されない、やや公共性の高い小規模建築を設計対象としている。したがって、建築に関する地域や社会からの要求を考慮しながら、建築計画の基礎的知識を建築設計に応用して提案を行うことが求められる。様々なスケールの模型と図面を用いた口頭発表によるエスキスが担当教官との間で数週間かけて行われ、最終的な成果を魅力的なプレゼンテーションボードや模型として表現する。</p>			
受講学生が達成すべき目標			
<p>1) 建築計画の基礎的な知識を理解し、小規模建築の計画・設計に求められる周辺環境や空間スケールに配慮して具体的かつ魅力的な建築空間にまとめあげていく応用力を身に付ける。</p> <p>2) 設計提案を魅力的なプレゼンテーションボードや模型として表現する能力を身に付ける。</p> <p>3) 図面や模型を用いながら、設計案についての基本的なプレゼンテーションを口頭で行う能力を身に付ける。</p>			
成績の評価基準			
<p>課題毎に期限内に提出された成果物で評価する（各40％）。課題毎にエスキスや中間講評会、最終講評会での発表で評価する（各10％）。(1)(2)の達成目標については、期限内に提出された成果物で評価する。(3)の達成目標については、エスキスや中間講評会、最終講評会での発表で評価する。</p>			
授業計画			
<p>小規模文化施設（美術館）：7週間 美術館の設計を通じて、外部空間や周辺環境を考慮しながら、建築計画の基礎的知識を活用し、様々な機能を空間的形態へと統合して建築設計に応用していくことを学ぶ。またこの課題では計画案を模型にて美しく表現することを学ぶ。</p> <p>保存再生と小規模建築（オフィス）：8週間 地域に継承されてきた歴史的建築を再生し、新たな建築を付加（増築）して、都市景観と調和した地域を活性する建築を設計する。歴史的建築の価値とエクステンション・デザインについて考え、周辺環境に配慮した提案を行う。社会の要求に考慮しながら、コアや縦動線など積層建築の設計に必要な知識を習得し、構造的整合性を満たしつつ魅力的な建築空間を構築していくことを学ぶ。またこの課題では計画案を図面に的確に表現することを学ぶ。</p>			
授業時間外学習			
参考書・教科書			
<p>日本建築学会編「第二版コンパクト建築設計資料集成」丸善株式会社 日本建築学会編「空間デザイン事典」井上書院</p>			
オフィスアワ -			
毎週月曜日14:00～15:00（担当教員により異なるので確認すること）			
修得しておくべき科目・必要な予備知識			
<p>設計基礎演習I、設計基礎演習II、建築設計Iを修得しなければ本演習は受講できない。また、本演習の単位を取得しなければ、卒業設計を受講することができない。</p> <p>芸術、哲学、社会学、文学等一般教養を幅広く身につけておくことが好ましい。</p>			
学科の学習・教育到達目標との関連			

学習・教育目標における本科目の分野は、建築の高度な知識・能力（D1）、自主的・継続的学習能力とエンジニアリング・デザイン能力（E1）で、授業時間はそれぞれ35時間と32.5時間です。尚、本科目は建築学科エンジニアリングデザイン教育の「デザイン教育コア科目」です。

授業形態

実習

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング（「その他」の内容）

アクティブ・ラーニング（授業回数）